

信頼性

教育機関/国立大学法人・学校法人

国立大学法人 名古屋大学

「国立大学法人 名古屋大学 環境報告書2010」

自己評価委員会を立ち上げ、環境報告書の記載内容について厳しい視点で評価している。このことは、信頼性向上を志向するものとして高く評価できる。さらに「自己評価委員会報告書」を別冊として発行し、それらの内容を詳細に公表している点も良い。



環境評価

流通業(卸売業)/商社

丸紅株式会社

「Marubeni CSR Report 2010」

グループの環境保全活動について集約している中で、「投融资や開発プロジェクトの環境評価」として社内決済申請時の「案件環境評価シート」を用いたチェックと、環境影響が懸念

される場合のフォローアップ調査を実施している。併せて、「大気汚染」「騒音・振動」など環境要因別の評価件数を表(複数回答)の形で開示している。

環境保全活動

案件推進にあたっての環境配慮の徹底

投融资や開発プロジェクトの環境評価

丸紅では、事業への投融资や開発プロジェクト案件を進めるにあたって、環境に大きな影響を与える可能性がないか、環境関連法令に違反していないか、事故などの緊急事態の発生時に即時的な環境影響を与えないかなどを、「案件環境評価シート」を用いてチェックし、決裁申請書とともに回付して、決裁者の可否判断材料としています。チェックの結果、環境影響が懸念される案件については、フォローアップ調査を実施しています。2009年度は不動産案件、出資・融資・保証案件など、環境リスクのある約数123件の案件について環境評価を行いました。主な環境要因別に分類した案件環境評価件数は下記の通りです。

大気汚染	57
水質汚染	60
土壌汚染	38
騒音・振動	57
悪臭	6
廃棄物増加	25
天然資源の枯渇	27
地球温暖化	24
その他	7
合計	301

(合計件数については、要因の指標がなかった案件および1案件で複数の要因を指摘されたケースもあり、案件環境評価の総数とは一致しません。)

環境に関する教育・研修

グループでの環境教育の推進

丸紅では、環境に対する社員教育を継続して行っていくことが、環境に対する意識向上のために重要と考えています。そのため、新入社員研修での環境に関する研修をはじめ、各部署の環境担当者に対しては事前に「環境担当者e-Learning研修」、丸紅グループ会社における内部環境監査員に対しては「内部環境監査員研修」を実施しています。CSR・地球環境室員など環境マネジメントシステムの策定・運用で指導的な役割を果たす社員は、外部研修機関による「ISO環境監査員養成研修」を受講しています。また環境への理解を深めるため、09年度も役員・社員および派遣社員を対象とした「地球環境e-Learning研修」を実施しました。

環境意識向上キャンペーンの実施

丸紅グループでは、役員や社員だけでなく、その家族も含めて、環境問題をより正しく理解し、その解決に向けて自らできることを実践していくことが何よりも大切と考えています。そのため、07年から「環境意識向上キャンペーン」を始めました。09年9月、東京本社で柴田明夫丸紅経済研究所所長の講演会「経済と環境——理念を前提とした経済の発展」を開催。11月には林家うん平研究による環境活動・講演会「江戸の環境リサイクルもったいない精神を見直そう」を行いました。さらに、Teeco検定(環境社会検定試験)の受験を推奨し、その結果09年度はグループの役員・社員58名が合格しています。

取引先やグループ会社における環境配慮の促進

環境配慮の輪を広げる活動

丸紅では、事業活動による環境負荷の低減を図るため、主要取引先・業務委託先に対して丸紅グループ環境方針に基づく環境保全活動への理解・協力を要請しています。また、ISO14001の導入状況、緊急事態への対策、環境管理体制のチェックなども行っています。さらに、丸紅グループ会社に「丸紅グループ環境方針」を浸透させるほか、環境関連法令の遵守や緊急事態への適切な対応を要請しています。また、環境マネジメントシステムの導入を支援し、環境配慮への意識向上を図っています。

2009年度に実施した環境に関する研修/セミナー

研修/セミナー名	形態/場所/講師	対象者	実施時期	参加人数
環境担当者研修	e-Learning 研修	部門/部署環境担当者 受講希望のグループ会社社員	2009年4月および新環境担当者を任じた時	204名
ISO14001内部環境監査員研修	東京・大阪 部門環境担当者、事業会社で内部監査を行うISO業務担当者		2009年5~6月に3回実施	61名
REACHセミナー	東京 丸紅社員 受講希望のグループ会社社員		2009年9月	140名
廃棄物処理法セミナー	東京・大阪 丸紅グループの廃棄物処理法関連業務の担当者		2009年10月	407名
地球環境研修2009	e-Learning 研修	丸紅社員(出向者、海外駐在員含む) 丸紅勤務の派遣社員 受講希望のグループ会社社員	2009年10~11月	4,086名
廃棄物処理法研修	e-Learning 研修	国内向け者を含むすべての丸紅の社員(海外勤務者もできるだけ受講) 丸紅勤務の派遣社員	2009年10~11月	3,963名
部門別廃棄物処理法研修	東京・名古屋・北海道 名古屋本社、北海道支社、ライフスタイル部門、開発建設部門、フロント・船舶・産業機械部門、主権業務部門の関連業務の担当者		2009年6月~2010年11月	163名
環境講演会	丸紅経済研究所 柴田明夫所長	丸紅グループ社員	2009年9月	147名
環境英語会	英語家 林家うん平所長	丸紅グループ社員	2009年11月	81名

eco検定合格者の声

丸紅ファッションリンク 入庫総務課 高橋由紀子

「皆さんと一緒にトライしてみたいです。課長社長(当時)より全社員への受講意欲。目標がもたらされるチャレンジがテキストと勉強会に取りかかったが、意外難しく短くないエコ検定。社長とともに精進合格! おかげで設定年度と目標水準を克服する自分生まれました。」

都心の水辺でエコツアー

丸紅社員とその家族を対象に、私たちの生活と川のかかわりについて、ツアーガイドの説明を聞きながら神田川、隅田川、日本橋川をエコポイントで巡るツアーを企画しました。2009年9月21・22日のナイトツアーには28名が参加しました。

CSR 調達

製造業 / 繊維・衣服・その他繊維製品

帝人株式会社

「2010年 帝人グループ CSR 報告書」

社会性報告 CSR調達

取引先とともに推進するCSR調達・物流

帝人グループでは取引先への配慮、社会的配慮と責任について基準を設けて管理し、必要に応じてフォロー指導を行っており、CSR活動に関する取引先アンケートを定期的に行うこと、他社と協力して行うことで、CSR調達活動を帝人グループ内外に広げています。

CSR調達

帝人グループは、さまざまな原材料、機器、部品などを世界中の企業から調達しており、近年高まるCSR調達の要請に応えるべく、帝人グループの原料・資材調達に関する考え方や基準を公開し、公正で透明な購買・調達活動を展開しています。

2006年度より、帝人グループHPに「帝人グループの購買・調達活動について」を掲載し、帝人グループの購買・調達活動の基本方針をはじめ、購買・調達の流れ、新規お取引開始までの手順などを公開しています。調達における社会的信頼性を高めるためには、取引先のCSRへの取り組みと協働し、両者一体となった活動を進めることが必要のため、「CSR調達ガイドライン」をHP上に公開して、取引先との公正な

関係の再構築を進めています。2007年度からは、グローバル化に対応して英語版HP^{※1}にも掲載しました。また、同じく2007年度に、取引先のCSR活動状況を把握・支援するため、独自に開発した「CSR取引先管理システム」を立ち上げ、2008年度には、東レ(株)とこのシステムの共同利用を開始。加えて、帝人グループCSR調達方針のさらなる浸透や業界への拡大、前年度に引き続いての偽装請負総点検に基づく適正な契約、運用管理の徹底、帝人グループ購買物流会議の開催によるCSR調達活動のグループ展開強化等、さらなる充実策を図りました。2009年度もこれらの活動を拡大・継続することで、データの蓄積、取引先への浸透、フォローの充実を図りました。

※1 英語版HP
http://www.teijin.co.jp/english/about/about06.html

CSR取引先アンケートのグローバル展開と共同運用充実

2008年度に実施したファイバーフロンティア(株)へのCSR取引先管理システム運転移管、東レ(株)との共同展開開始をベースに、2009年度は取引先管理システム活用のいっそうの充実に取り組みました。まず、これらの実施結果を踏まえて、取引先へのフォロー、管理範囲拡大等を帝人、東レそれぞれに実施。そのうえで、定期的に運用方法・管理方法について密接な情報交換を行い、お互いのCSR調達活動・取引先管理レベル向上を図りました。また、2008年度にテストを実施した帝人化成、東邦テナックスで、システムの活用をさらに本格化するなど、グループ内における取り組みも拡大・着実にすすめました。2009年度からは調達のグローバル化に対応し、

CSR調達ガイドライン

帝人グループの調達活動においては、お取引先様に下記取り組みを求めます。

- 品質・安全性**
 - 全社方針や行動規範等に、「品質・安全性」に関する項目を含むこと。
 - 「品質・安全性」に関する推進部門と推進責任者を決めて適切な管理をしていること。
- 人権・労働**
 - 全社方針や行動規範等に、「人権・労働」に関する項目が含まれていること。
 - 「人権・労働」に関する推進部門と推進責任者を決めて適切な管理をしていること。
- 安全衛生**
 - 全社方針や行動規範等に、「安全衛生」に関する項目を含むこと。
 - 「安全衛生」に関する推進部門と推進責任者を決めて適切な管理をしていること。
- 公正取引・倫理**
 - 全社方針や行動規範等に、「公正取引・倫理」に関する項目を含むこと。
 - 「公正取引・倫理」に関する推進部門と推進責任者を決めて適切な管理をしていること。
- 情報セキュリティ**
 - 全社方針や行動規範等に、「情報セキュリティ」に関する項目を含むこと。

- 「情報セキュリティ」に関する社会的責任の推進部門と推進責任者を決めて適切な管理をすること。
- 6. 社会貢献**
 - 全社方針や行動規範等に、「社会貢献」に関する項目を含むこと。
 - 「社会貢献」に関する推進部門と推進責任者を決めて適切な管理をすること。
- 7. 環境全般**
 - 全社方針や行動規範等に、「環境」に関する項目が含まれていること。
 - 「環境」に関する推進部門と推進責任者を決めて適切な管理をすること。
 - 「環境」に関し定められた方針や、規範を公開していること。
- 8. 製品に含有する化学物質の管理**
 - 法令などで含有禁止に指定された化学物質について、最新情報を把握し、社内調査等の事実やデータによる管理を適切に行うこと。
- 9. 製造工程で用いる化学物質の管理**
 - 法令などで使用が禁止された化学物質について、最新情報を把握し、社内調査等の事実やデータによる管理を適切に行うこと。
- 10. 環境保全(大気、排水、騒音、振動など)に係る許認可**

- 許認可が必要な施設や作業の届出や、法令などで定められた管理者などの選任を適切に管理すること。
- 11. 環境マネジメントシステム**
 - 環境マネジメントシステムを構築、運用し、継続的改善に取り組むこと。
- 12. 環境への影響(大気、排水、土壌)の最小化**
 - 自主基準を策定し、社内調査等の事実やデータの把握による現状認識を行うこと。
- 13. 化学物質の環境への排出量の削減**
 - 自主基準を策定し、社内調査等の事実やデータの把握による現状認識を行うこと。
- 14. 資源・エネルギーの有効活用**
 - 自主基準を策定し、社内調査等の事実やデータの把握による現状認識を行うこと。
- 15. 温室効果ガスの排出量の削減**
 - 自主基準を策定し、社内調査等の事実やデータの把握による現状認識を行うこと。
- 16. 廃棄物削減(3R)**
 - 自主基準を策定し、社内調査等の事実やデータの把握による現状認識を行うこと。
- 17. 環境への取組み状況の開示**
 - 環境への取組みについて、定期的にとりまとめ、情報開示すること。

CSR調達

英語版のCSR取引先アンケートを作成し、オンラインで利用を開始しました。

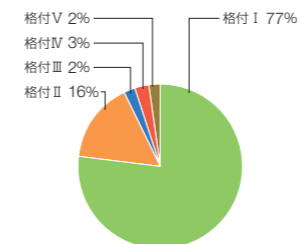
さらに2009年度は、過去実績を基に運用・管理ターゲットの最適化を図った結果、2009年3月末現在、全購買金額の73%相当(2008年度は71%相当)の主要取引先374社より回答を得ました。これを「CSR取引先評価基準」により分析し、データベース化を続けています。

CSR取引先アンケートシステムの開発により、各取引先の時系列的な実態把握が可能となるなど、データをより有効に活用できる体制が整いました。これらの情報は、調達先にもフィードバックし、取引先のCSR活動改善に役立てていただいています。今後、CSR調達の持続的な発展の基礎とするため、さらに対象取引先の拡大、アンケート結果の活用をすすめていきます。

取引先格付け結果

CSR取引先アンケートの結果と評価基準から、取引先374社について5段階評価が1と判断されたI~III群の企業数の比率は約95%、調達金額は99%でした。格付けが帝人のCSR評価基準に満たない

取引先格付け企業数比率

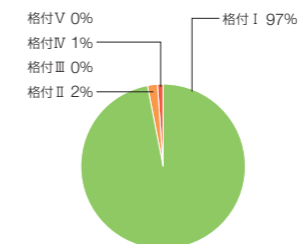


企業(Ⅳ、Ⅴ群)のうち12社がIII群以上にレベルアップする等、フォローアップの効果も着実に出ています。2009年度も、格付けが帝人のCSR評価基準に満たない企業(Ⅳ、Ⅴ群)に対しては、結果をフィードバックし改善を要請しました。今後も、本システムが取引先と効率的・効果的なCSR調達を進めるための合業界のデファクトスタンダードとなるよう、グループ会社を含め関係各社に参加を働きかけていきます。

グリーン調達・グリーン購入

「グリーン調達ガイドライン」に基づき、対象品目の取引先に対して環境マネジメントシステムの構築確認および構築要請を行うグリーン調達を実施してきました。2007年度からは、グループグリーン調達基準をWebサイトに公開し、取引先に対する環境基準の周知・浸透を進めてきました。また、帝人グループは製品に含まれる可能性のある原料・資材中の化学物質のグリーン管理にも取り組んでいます。化審法で格付けを実施しました。取引先に問題がないと判断されたI~III群の企業数の比率は約95%、調達金額は99%でした。格付けが帝人のCSR評価基準に満たない

取引先格付け調達金額比率



帝人グループにおけるCSR調達の考え方(前文)

帝人グループでは、国内外における経営活動を持続可能なものとし、かつ持続可能な社会の構築に向けて主体的に貢献するため、「CSRガイドライン」を定め、安全・防災・環境保全、そして企業倫理・法令遵守への取り組みをはじめとしたCSR(Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任)を最優先の経営課題として強化・推進することとしています。なかでもサプライチェーン全体で責任ある企業活動を展開するために「CSR調達ガイドライン」を制定し、調達・購買先への環境・社会対応支援を願い、調達・購買先における環境への配慮、法令遵守、人権推進などCSRへの取り組みを促進すべく継続的に支援・指導していくこととしています。

Webと冊子の棲み分け

建設業/総合工事業・職別工事業・設備工事業

積水ハウス株式会社

[Sustainability Report 2010]

サステナブル・マネジメント

WEB掲載項目について

本冊子では、できがかり重要性の高い報告に絞り、読みやすいレポートをめざしています。そのため、本冊子に掲載できなかった取り組みや詳細データはWEBでご紹介しています。



<http://www.sekisuhouse.co.jp/sustainable/2010/>



積水ハウスのグループについて

- グループの概要
- これまでのあゆみ
- 研究・開発
 - R&Dの拠点「総合住宅研究所」
 - 近未来型住宅「ゼロエミッションハウス」
 - サステナブルデザインラボ「トリートメント」
 - ケミスタウンプロジェクト
 - 千葉工大との共同研究「ロボットテック/ロジー(RT)」
 - サステナビリティ学連携研究機構
 - MIT(マサチューセッツ工科大学)との共同研究プロジェクト
- 社外からの評価
 - SRD(ステークホルダー)への組み入れ
 - 表彰実績
- 企業理念とサステナブル・ビジョン
- 創立50周年サステナブル社会の実現に向けて
- 積水ハウスが考える「4つの価値」と「13の指針」
 - 環境価値
 - 経済価値
 - 社会価値
 - 住まい手価値

ガバナンス・コンプライアンス

- CSRに関する方針・指針
 - CSRの原点となる「企業理念」
 - 経営ビジョン
 - サステナブルビジョン
- CSR推進体制
 - CSR委員会とCSR推進体制
 - 社外委員からのコメント
 - 事業所におけるCSR推進
 - CSRマネジメントツール
- コーポレートガバナンス・内部統制システム
 - コーポレートガバナンス・内部統制システム
- 環境マネジメント
 - 環境マネジメントの推進、方針
 - 事業所での環境推進体制
 - ISO14001認証取得状況
 - 環境に関わる法規制の遵守状況
 - 廃棄物処理管理体制
 - 環境の取り組みについての従業員研修
- コンプライアンス
 - コンプライアンスの考え方
 - 企業倫理事項の遵守
 - 個人情報保護の取り組み
 - 内部通報システムと公益通報者の保護
 - コンプライアンス推進活動
 - 公正取引
 - 各種補助金制度の利用
- ヒューマンリレーション
 - ヒューマンリレーション推進体制
 - ヒューマンリレーション研修
 - セクシュアルハラスメント、パワハラメント相談窓口
- リスクマネジメント
 - リスクマネジメント体制
 - 新規インフルエンザの対策について
 - 廃棄物処理と土壌汚染に関するリスクへの対応
 - 自然災害発生時の対応

コミュニケーション

- お客様とのコミュニケーション
 - お客様満足に関する方針と体制
 - CS向上研修とガイドブックの活用
 - お客様アンケートの分析とフィードバック
 - オーナー様とのコミュニケーション
 - 賃貸住宅における入居者満足度の向上
- 従業員とのコミュニケーション
 - 従業員参加型の様々な活動
 - 月刊メールマガジン「CSRコラム」の発行
 - 社内誌を通じたコミュニケーション
 - 経営トップと従業員の対話
- 社会とのコミュニケーション
 - ステークホルダーコミュニケーション指針
 - ステークホルダーとの対話
 - 「サステナビリティレポート」の発行
 - 団体活動および提言活動
 - 環境イベントの開催
- 株主とのコミュニケーション

安全安心・快適

- 安全
 - 住宅防災
 - 防犯への配慮
 - ユニバーサルデザイン
 - 健康への配慮
 - 化学物質の管理
 - 「化学物質ガイドライン」の運用と管理
 - ・アスベスト問題への対応
 - ・解体時の適正なフロン回収
 - ・PRTR-工場で使用する化学物質の管理
- 安心
 - 部材生産品質向上のために
 - ・部材生産の品質管理
 - 施工品質向上のために
 - ・全社施工品質管理システム
 - ・グループ会社と協力工場による任意組織「積水ハウス会」
 - ・施工マニュアル「つちおと」の発行
 - ・施工現場の改善を推進「私のアイデア-21」
 - ・苦情情報のデータベース化と品質向上への活用
 - ・「教育訓練センター」訓練校での人材育成
 - ・厚労省認定の社内技能者検定制度
 - ・積水ハウスリフォームマスター制度
 - コンサルティングハウジング
 - ・体験型施設を通じたコンサルティング
 - ・コンサルティング力向上のための従業員研修
 - ・補助金制度・長期優良住宅対応のシミュレーションプログラム
- アフターサービス
 - ・カスタマーズセンター
 - ・カスタマーズセンター休日受付センター
 - ・住宅履歴更新台帳「いえるぐ」
- 快適
 - 戸建住宅の住まい方提案
 - 「ライフスタイルブック」の発行
 - 賃貸住宅の住まい方提案
 - ・多様化するニーズに応じた賃貸住宅
 - 高齢社会に向けたさまざまな提案
 - ・「若年・高齢者の住まい方」の提案
 - ・シニアの移住を支援する制度

まちづくり憲章

- まちづくり憲章
- 戸建分譲住宅フェア「まちなみ参観日」
- 「経年美化」のまちづくり
- 「n+豊か」のまちづくり
- 賃貸住宅のまちづくり
- マンション・都市開発の実例
- 人材サステナビリティ
 - 人事基本方針
 - 子育てと仕事との両立を支援
- 女性活躍の推進
 - 女性が活躍する職場づくり
 - ・女性の管理職への登用
 - ・女性営業職の支援
 - 展示場女性社員との接客研修
 - 女性営業職の積極採用
- ワークライフバランスのための制度
 - 育児休業制度や介護休業制度などの利用状況
 - 積立年休、退職者復職登録、職場復帰支援、ボランティア休暇
 - 人材マネジメント進化研修

障がい者雇用の推進

- 障がい者雇用の推進
- 人材育成
 - 人材育成の考え方
 - 経営力強化に向けた取り組み
 - 社内研修制度
 - 社内資格制度
 - 社内公募制度
- 労働安全衛生
 - メンタルヘルスマネジメント
 - メンタルヘルス離職別研修
 - 労働災害発生状況
 - 施工現場での労働安全衛生確保
 - 職場での労働環境の改善
- 取引先との協働
 - 労働安全衛生マネジメントシステム
 - 施工現場の安全活動
 - 労働安全衛生研修の実施
 - セキスイハウス協働会
 - セキスイハウス労働保険事務組合
 - 施工従事者データベースの活用

社会貢献活動

- 社会貢献活動の考え方・指針
- 住文化の向上
 - 「view point」の発行
 - 「生活テラブック」の発行
 - 「住み継がれる家の価値」冊子発行への協力
 - 住まいづくりの教室「すまい塾」の開催
 - 住まいの図書館
 - 出版事業を展開「株式会社住まいの図書館」
- 教育貢献活動
 - 総合住宅研究所の教育貢献活動
 - 体験教育の機会を提供する「住まいの夢工場」
 - 各地の教育貢献
 - 新梅田シティ「新・里山」での教育貢献
 - インターシップの実施
 - 「地球にやさしい住生活デザインコンペ」の開催
 - 関西MBAフォーラムへの協賛
 - 環境教育プログラムの実施

レポートの巻末にWeb掲載項目について精緻な一覧リストを載せている。通常のレポートの場合、参照するURLを適宜記載することに留まっておられ、環境・CSR関連情報の全体像を把握することは必ずしも容易ではないが、ここではWebも含めたサステナビリティレポートの全体像が一目で把握できる。

社会貢献活動

- 防災の啓発・災害への備え
 - 防災意識の啓発
 - 燃料電池の普及促進
 - 「アクションプランR20」の推進
 - 全灯LED照明の「くらしのあかり塾」
- 防犯の啓発
 - 防犯教育と意識啓発
- 障がい者の自立支援
 - セラブ製品の販売協力、ノベルティ採用
 - 障害者週間行事への参加
- NPO・NGOとの協働
 - NPO・NGOとの協働
 - 社会起業家をめざす若者の支援「edge」への協賛
 - NPO法人西山卯三記念すまい
 - まちづくり文庫への協力
- ボランティア・地域活動
 - 従業員と会社の共同寄付制度
 - 「積水ハウスマッチングプログラム」
 - チャリティ・寄付・義援金
 - ・災害義援金
 - ・チャリティフリーマーケットの実施
 - ・子どもの日チャリティイベントへの協力
 - ボランティア活動
 - ・各地へ広がるボランティア活動
 - ・「積水ハウスの森」
 - ・清掃活動
 - 各種イベントの支援
 - ・地域イベントの支援
 - ・多様な国際交流イベントの開催
 - ・「100万人のキャンドルナイト」への参加
 - 社会貢献活動社長表彰
- 公的制度や認定の活用
 - 環境共生住宅
 - CASBEE(建築物総合環境性能評価システム)
 - 住宅省エネラベル
- 設計・開発時のCO2排出削減の取り組み
- 生産時のCO2排出削減の取り組み
 - 生産時のエネルギー消費
 - 木質バイオマス・ガス化発電システムの導入
- 輸送時のCO2排出削減の取り組み
 - 輸送時のエネルギー消費
 - 積載効率の高い「増トン車」の導入
- 居住時のCO2排出削減の取り組み
 - 次世代断熱仕様の標準化
 - 「アクションプラン20」から「グリーンファースト」へ
 - 太陽光発電システムの普及促進

地球温暖化防止

地球温暖化防止

- 高効率給湯器の普及促進
- 燃料電池の普及促進
- 「アクションプランR20」の推進
- 全灯LED照明の「くらしのあかり塾」
- 事務所で取り組むCO2排出削減の取り組み
 - 事務所での省エネ推進活動
- 住まいの価値を維持する長期保証
- 住まいの長寿命化を促進する新技術
 - 長期優良住宅と品確法
 - 長期住宅先導的モデル事業への選定
- 最適なリフォームの提案
 - 循環型社会の形成につながるリフォーム事業
- 再生住宅の市場形成への貢献
 - 「エバーループ」オーナー住宅買取再生事業
- 資源の循環利用
 - 資源循環活動のあゆみ
 - 住宅1棟当たりの資源循環
- グループ全体で取り組むゼロエミッション
 - 「資源循環センター」
 - 「広域認定制度」を活用したリサイクルの推進
 - ICTタグを利用した次世代ゼロエミッション
 - 「ぐるっとメール」の活用による廃棄物の管理
- 工場
 - 工場ゼロエミッションの取り組み
 - フレックシブルによる廃棄物削減
 - 工場におけるリサイクルの推進
 - 工場における水使用量
- 新築施工現場
 - 新築施工現場でのゼロエミッション
 - 新築施工現場のリデュース
 - リターンブル梱包の導入
- アフターメンテナンス部門
 - メンテナンス工事でゼロエミッション
- リフォーム施工現場
 - リフォーム工事でゼロエミッション
- その他の廃棄物削減の取り組み
 - 解体廃棄物の再資源化
- 居住時の資源有効利用
 - 雨水利用の推進
 - 手元ストッパワーの効果
 - 超節水型便器の標準化

資源循環

資源循環

- 事務所における取り組み
 - 「グリーン購入」の推進
 - 紙資源使用量削減
 - 施工現場ユニフォームのリサイクル
 - エコ車等の導入とエコト
 - エコノミードライブの推進
- 原材料調達時の配慮
 - 「木材調達ガイドライン」の運用
 - サプライヤーとの連携による調達レベルの向上
 - 熱帯雨林利用の禁止
 - 木材の循環利用を推進
 - 生物多様性日本アワード
 - 「グリーン購入大賞」受賞
- 生態系保全の取り組み
 - 「企業と生物多様性イニシアティブ(BIB)」への参加など
 - 都市開発における環境配慮
 - 住まいの緑化を提案
 - 「5本の樹」計画の推進
 - 集合住宅における緑化の推進
 - 生物多様性サイトの開設
 - 「5本の樹・野鳥ケイタイ図鑑」
 - 庭木再生利用の取り組み
- 環境目標と実績
 - 約束1/約束2/約束3/その他
- マテリアルバランス
- 環境会計
- サイトレポート
 - 東北工場/関東工場/静岡工場/兵庫工場/山口工場
- 社会性目標と実績
 - CSR方針と体制/お客様のために/従業員、取引先のために/株主、地域社会のために
- GRIガイドライン
- 環境省ガイドライン
- 報告書ダウンロード

生物多様性

データ

編集後記

本年度のサステナビリティレポートも当社が環境大臣と交わした「エコ・ファーストの約束」と当社のコミットメントである「私たちの約束」に関わる活動を中心に進捗状況の報告を行いました。特に地球温暖化防止と生態系保全の特集ページは昨年約2倍のページ数を割き、より詳しく当社の考えと取り組みを紹介いたしました。

また、当社は2010年8月に前目の50周年を迎えることもあり、これまでの軌跡をたどるとともに今後のCSR活動の方向性についても追記いたしました。全体としてかなりのボリューム感ある冊子となりました。完成までの苦労が多かった分、発刊した今は充実感一杯です。もちろん我々の活動はこれで終結した訳ではなく、社内外の方々へのレポート内容を伝え、浸透を図るというミッションを果たさなければなりません。この点に関しては昨年以上に汗をかく所存です。

取材、編集にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



「サステナビリティレポート2010」編集チーム
コーポレート・コミュニケーション部CSR室
環境推進部
IT業務部

サイトレポート

製造業/電子製品製造業

シャープ株式会社 三重工場

「シャープ株式会社三重工場 環境・社会貢献活動情報誌 2010年版」

地域住民が、煙突から出ている水蒸気を不安に感じ「相可台から見える煙突から出ているものは何?」と工場に対して寄せた質問に対して、「工場目線」ではなく「住民目線」で懇切丁寧にわかりやすく説明している。

地域の方からの質問にお答えします①

相可台から見える煙突から出ているものは何?
相可台に住む方から相可台からたくさんの煙突が見えるが、「その煙突からはどんなものが出ているの?」との質問がありましたのでお答えいたします

《相可台から見える煙突には下記のものがあります》

- ①酸・有機系スクラバー煙突【白いロケット型の煙突】 → 水蒸気がでます 白い煙に見えます
- ②アルコール系スクラバー煙突【シルバー色の細い煙突】 → 燃焼熱がでます 煙はでません
- ③換気用排気煙突【白い煙突】 → 換気用空気です 煙はでません
- ④クーリングタワー【ドラム缶型の低い円筒物】 → 水蒸気がでます 白い煙に見えます

換気用の煙突以外は水蒸気もしくは燃焼したあとの熱気が排出され、有害なものはありません

煙の見えにくい夜にたくさん煙が出ているが・・・
煙の見えにくい夜にたくさん出ている様に見えるとの質問がありました。

回答です
そのようなことはありません。工場は24時間均一稼働しており、またすぐに多くしたり減らしたり変動させることができません。屋間も夜も排出量は一定です

煙突から出ている煙は水蒸気で、これは水分を多く含んだ暖かい排気が煙突から出た時に外気の冷たい空気に冷やされて水蒸気になるため白くみえます。つまりやかんの湯気と同じです。夜は気温が低くなるためにたくさん出ているように見えるのはそのためです

水蒸気は、外気と同じ温度にまで冷えると消えてしまいます。化学物質が混じっていると煙はいつまでも消えないのでわかります

水蒸気はすぐに消えて見えなくなります

酸・有機系スクラバー煙突から出る水蒸気

サイトレポート

製造業/プラスチック製品

三菱樹脂株式会社 平塚工場

「2010年環境報告書 三菱樹脂 平塚工場」

サイトレポートにおいて重要な開示項目である「環境苦情・事故」について、その過去4年分を公開している。具体的には、「発生日月」「苦情・事故内容」および「対策内容」で、このようなネガティブ情報を包み隠さず公開する姿勢は、近隣住民の当該工場への信頼性向上に大いに寄与するものと思われる。

廃棄物中間処理業者および循環資源処理委託業者の監査

三菱樹脂グループでは、2002年度よりグループ共同で中間処理業者を監査しています。2009年度、当工場担当の21業者を監査しました。監査では、※マニフェスト伝票の照合も行っています。監査の結果、不適切な処理はありませんでした。循環資源(廃プラ等)処理委託業者についても同様に、現地監査を実施しました。監査チェックリストにより、処理ルート、最終商品など、当工場担当の10の循環資源処理委託業者すべてが不適切な処理はありませんでした。当工場の監査実施率は100%を継続しています。

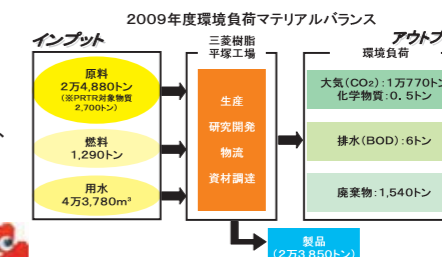


廃棄物中間処理業者の監査 処理委託業者の設備

※マニフェスト伝票とは・・・
「産業廃棄物管理票」のことです。マニフェスト伝票を用いて、廃棄物処理の流れを確認できるようにし、不法投棄などを未然に防ぐためのものです。

環境負荷マテリアルバランス

環境負荷のインプットとして、原料使用量、燃料使用量、水使用量を示しています。アウトプットとして、大気へのCO₂の排出量、化学物質排出量、排水中の※BOD量、廃棄物の総量を右の図で示しました。環境負荷となる、大気へのCO₂排出、廃棄物、水、原料使用量などについて、設備改善や歩留向上検討などの省エネルギー・省資源活動で削減に取り組んでいます。



※BODとは・・・
Biochemical Oxygen Demandの略で生物化学的酸素要求量のことで。

環境苦情・事故

2007年度から2009年度の環境に関する苦情や工場内で発生した環境事故内容と対策内容は下表のとおりです。2009年度は、2010年2月に1件騒音の苦情がありました。

発生日月	苦情・事故内容	対策内容
2007年 8月 (社外苦情)	工場西側住民の方より、土曜日工事による騒音が大きい、工事を中止して欲しいとの苦情がありました。	工事を即中止しました。近隣の生活環境に影響を与えないよう騒音が発生する工事は、原則的に土曜日、日曜日を選べる工事日程とするの遵守、および低騒音型工具の使用を進めることとしました。
2008年 2009年	特に苦情・事故などはありませんでした。	
2010年 2月 (社外苦情)	工場北東側住民の方より、工事による騒音が大きい、工事を中止して欲しいとの苦情がありました。	工事を即中止しました。近隣の生活環境に影響を与えないよう騒音が発生する工事は事前に自治会長を通して、住民の方々に連絡していただくよう見直しし、自治会長の了承を得ました。また、工事騒音が極力出ない方法で実施するように改善しました。

サイトレポート

製造業 / 電気機械器具

株式会社リコー 御殿場事業所

〔御殿場事業所環境報告書2010〕

サイト内のビオトープにおける過去10年間にわたる生物多様性の取り組みを、社員のみならず近隣住民や園児まで拡大し、環境コミュニケーションの場としても大いに活用している。2001年に近隣の園児によるメダカの放流、そして2002年の蛍の幼虫放流等を経て、今回のサイトレポートの編集後記

には次のような記述がある。「*蛍の乱舞を見る*これは御殿場ビオトープ構築メンバーの夢でした。2010年6月初旬にビオトープで自然繁殖した蛍が20~30匹舞い、私達は感動のあまり声も出ないほどでした」

環境経営の基盤～生物多様性保全活動～

生物多様性保全活動の取り組み

生物多様性とは、多くの種類の生き物がいて、それらがつながり支えあって生態系の豊かさやバランスが保たれていること、また多様な遺伝子が過去からずっとつながっていることをいいます。私たちは、植物が生み出す酸素によって呼吸し、その暮らしも穀物や野菜、魚、木材など生物のもたらす恵みによって成り立っていますが、生物の多様性が衰退すると、地球上の生態系(エコシステム)の機能や生態系全体の生産力(生態系サービス)が低下し、人間の暮らしも困難になってしまいます。御殿場事業所では敷地内に構築したビオトープを活用し、自然の恵みを大切にすることを育てて欲しいと「自然教室」を開催しています。

御殿場ビオトープのご紹介 *ビオトープとは、野生生物の生息場所です。

ビオトープの軌跡

年度	内容
2000	ビオトープ構築設計開始
2001	ビオトープ完成 園児の園児によるメダカの放流 第1回自然教室の開催(環境作りワークショップ)
2002	第2回自然教室の開催 第1回自然教室の開催(竹とんぼ作り)
2003	第3回自然教室の開催(竹とんぼ作り)
2004	第4回自然教室の開催(竹とんぼ作り)
2006	第5回自然教室の開催(竹とんぼ作り)
2007	第6回自然教室の開催(竹とんぼ作り)
2008	第7回自然教室の開催(竹とんぼ作り)
2009	第8回自然教室の開催(竹とんぼ作り)

2001年 構築開始！

2001年 園児と一緒にメダカの放流

2002年 初めての自然教室開催

2009年度のビオトープ活動 自然教室の開催<春・夏・秋>
※冬は寒くてムリなんです・・・御殿場は、年に数回は雪が降りますよ～

第9回 自然教室体験学習 ～タケノコ掘り～
春の里山体験学習では、春の味覚、タケノコ掘りを体験！私の方が大きい！ホクだよー！と賑やかな声が竹林に響きわたりました。小雨だったのがちよっと残念！でも、熱々のタケノコご飯で心もお腹もホクホクでした！

第10回 自然教室体験学習 ～夏祭り～
御殿場事業所では、毎年7月の下旬に、近隣のみなさま、社員の家族・友人を招いて夏祭りを開催します。もちろん、環境ブースも出展！ミニ自然教室でビオトープに生息しているメダカとトンボ・カエルの生態系について紙芝居で学習しました。環境クイズコーナーも大盛況でした。

第9回 自然教室体験学習 ～芋ほりと看板づくり～
秋の味覚といったらサツマイモ！大収穫でした。焼き芋、芋汁・たんぱく食べて満足している子供達でした。他には、焼き芋が焼きあがるまでビオトープに遊びこる鳥のために、子供達が巣箱を作りました。自分の名前を巣箱に書いて春の野鳥観察が楽しめる様子でした。

トピックス

2010年6月初旬、全園の蛍の乱舞が見られました！
30匹ほどのゲンジボタルがビオトープで先日の乱舞を披露してくれました！試行錯誤を繰り返して、幼虫から自然ふ化するようにこだわったのが2008年からです。きめ細かな水量管理をし、ようやくボタル産卵会が実現できました。継続は力なり！来年は近隣のみなさまも招待しボタル産卵会が実現できたら・・・と、新たな夢と希望が膨らみました。

みえづらいでしょうが・・・私、ホタルの光です。

業界別インデックス

建設業

総合工事業・職別工事業・設備工事業

株式会社大林組	48
鹿島建設株式会社	61
清水建設株式会社	18
住友林業株式会社	56
積水ハウス株式会社	74
大成建設株式会社	30

製造業

食料品・飲料・飼料・たばこ

味の素株式会社	11
キリンビール株式会社	12
サントリーホールディングス株式会社	42
日清食品ホールディングス株式会社	38

繊維・衣服・その他繊維製品

住江織物株式会社	13
帝人株式会社	72

出版・印刷

凸版印刷株式会社	68
----------	----

化学工業・薬品製造

サライ株式会社	50
積水化学工業株式会社	4
武田薬品工業株式会社	54

プラスチック製品

三菱樹脂株式会社 平塚工場	77
---------------	----

ゴム製品

株式会社ブリヂストン	14
横浜ゴム株式会社	60

非鉄金属

DOWAホールディングス株式会社	44,58
------------------	-------

自動車製造業

株式会社デンソー	62
トヨタ自動車株式会社	28

電気機械器具

株式会社リコー	10
株式会社リコー 御殿場事業所	78

電子製品製造業

シャープ株式会社 三重工場	76
株式会社東芝	8
パナソニック株式会社	33

その他製造業

旭硝子株式会社	34
株式会社INAX	64
株式会社岡村製作所	49
コクヨ株式会社	57

株式会社小松製作所	17,65
住友大阪セメント株式会社	53
ダイキン工業株式会社	36
大日本印刷株式会社	66
太平洋セメント株式会社	20
株式会社ノリタケカンパニーリミテド	32
株式会社バンダイナムコホールディングス	22

電気・ガス等供給業他

水道業

東京都水道局	31
--------	----

流通業(卸売業)

商社

丸紅株式会社	71
三井物産株式会社	63
三菱商事株式会社	24

流通業(小売業)

生活協同組合

大阪いずみ市民生活協同組合	25
生活協同組合コープながの	46

金融・保険業

銀行・信託業

株式会社滋賀銀行	52
住友信託銀行株式会社	47
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	15

保険業

株式会社損害保険ジャパン	6
日本興亜損害保険株式会社	61

その他金融・保険業

オリックス株式会社	16
-----------	----

サービス業

旅館・ホテル・その他の宿泊所

株式会社スーパーホテル	40
-------------	----

その他サービス業

株式会社セブン&アイ・ホールディングス	27
株式会社リヴァックス	67

教育機関

国立大学法人・学校法人

国立大学法人京都大学	26
国立大学法人名古屋大学	70
国立大学法人三重大学	41